

ちば山の会 山菜山行 山行報告

【行動日】5月16日(土)～17日(日)

【ルート】尾白山、唐倉山

【メンバー】CL 柘植、山内、古関、小倉、岸野、齋藤(健)、富樫(富)、加藤、小俣、澤田路、時田、前田、白川、石井、多胡(記録)

【報告】

16日(土) 小塩登山口→尾白山山頂→小塩登山口 天気 雨のち晴れ

早朝、千葉各地から出発。福島に入るところには雨が強くなり、先行きが少し心配。と思ったが、集合場所の道の駅きららに着いてみると、山行前から山菜を摘み、岩塩と梅酒を使って灰汁抜きをしている人が！！

若干道を間違えつつ登山道入り口に到着。体調の悪かった富樫さんを駐車場へ残し、一路山菜採りへ。落ち葉降り積もる急登であったが、よきよきと生えるコゴミ、ゼンマイ、コシアブラに、一同の士気は高まる。しかし、依然として天候は悪く、カッパが暑い。鬱蒼とした杉林と、どこまで続くともしれない急坂に、筆者のテンションは暴落の一途をたどる…。

宮沢分岐に差しかけたあたりで、草花にも目が行くようになる。オオカメノキ、レースフラワー、タムシバなど、新緑に映える白い花弁が美しかった。尾根に乗ったときに遠く見える雪渓も相まって、わくわくした。その一方で、採集のために無理な力がかかったのか、折れてしまっているコシアブラの木もあり、痛ましい光景だった(ちば山メンバーが折ったのではない)。その後も、順調に夕飯の食材を確保し、シャクナゲを見ながら山頂へ到着。



下りは、下山開始直後の雪渓と、ぬかるんだ木の根っこに苦しめられた。しかし、ここに来て「コシアブラ見わけ名人」(Tさん)が登場する。幹を見ただけで次々に判別していく様に驚嘆。無事下山し、古町温泉赤岩荘にて入浴。その後、スーパーにて買い出しを行い、久川ふれあい広場キャンプ場へ向かう。

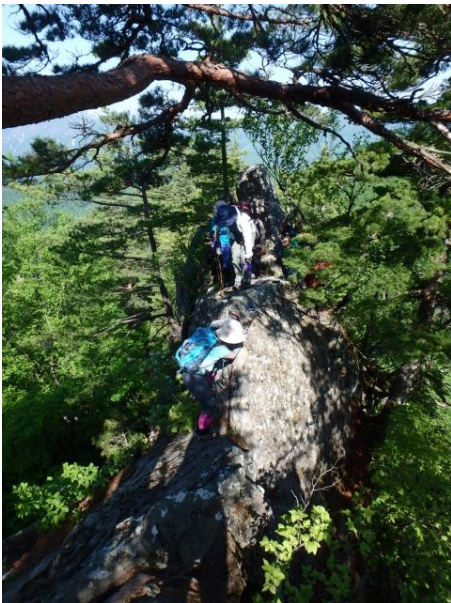
夕食は、収穫した山菜を用いた料理の数々。コゴミをさっと茹でたものや、ゼンマイの佃煮が並び、メインのコシアブラの天ぷらに舌鼓を打つ。小倉さん自作の釜で炊いたご飯もおいしかった。



17日（日） 唐倉山登山口→唐倉山山頂→唐倉山登山口 晴れ

朝食後、早々に唐倉山へ。事前に渡された資料に付された「上級者向き」の文字に、筆者は若干の不安を感じる。

登山道入口付近は伐採されていて広々としており、そこかしこにコゴミが生えていた。お土産収穫に励む人もちらほら。岩場などの危険箇所もあったが、全体的によく整備されており、不安なく登れた。



岩場からの眺望がよく、ふもとの田園風景もさることながら、会津駒ヶ岳や燧ヶ岳といったお馴染みの山も美しかった。稜線を吹き抜ける風が心地よく、本当に楽しい山行だった。



下りは林の中を急下降。木の根やロープにつかまりながら、順調に下って行った。しかし、油断は禁物。気を抜くと砂利や木の根で滑りそうになる。無事下山すると、とどめとばかりに山菜を集める者、湧水を飲む者、カエルの卵に目をキラキラさせる者など、思い思いの時間を過ごした。



キャンプ場に戻ると、ベンチに伸びている古関さん（体調不良でお留守番）と、今まさに吹き飛ばされそうなテントを目撃。あわてて撤収ののち、前夜の佃煮やら豆腐を食べる。その後は、お蕎麦屋さんと道の駅に立ち寄り、千葉へと帰った。

おわりに・・・

筆者にとって初めてのちば山お泊り山行でした。テント泊の経験はありましたが、社会人の集団登山は慣れおらず、緊張しました。ですが、山行の途中で天ぷらを揚げるというのはなかなかできることではなく、貴重な体験をさせていただきました。

山としては、2日目の唐倉山が印象的でした。李白の「峨眉山月歌」で有名な、中国・四川省の峨眉山に似ていると聞いていたので、登っているときはずっとそのことを考えていました。いつか行ってみたい山です、峨眉山。